

第67回「ゲーテの会」



未来に向かう人類の英知を探る
— 時代の裂け目の中で、人々は何に希望を見出してきたか —

《思想・文学分野》

「明治維新 150 年の功罪—女性の変化を中心に」

講師：同志社大学大学院社会学研究科教授 佐伯 順子 先生

【講演要旨】 明治維新、または戊辰 150 年を過ぎ、日本の近代化過程をふりかえる議論が高まった。江戸から明治への「文明開化」期は、社会制度から市民生活にいたるまで多くの「改良」ブームがまきおこり、日本の歴史上の大きな変革期であったことは間違いない。

ただし、当時の「改良」が実質「改悪」であった面もあり、明治以降の女子教育は、男女「対等」を理想に掲げながらも、実質的に、女性の役割を家事育児に限定することで、生産労働から女性を疎外した。現在、日本のジェンダー・ギャップ・インデックスが 110 位（世界経済フォーラム、2018 年 12 月発表、2017 年は 114 位）であり、「女性活躍」という掛け声とは裏腹に、大学医学部入試における女性差別という深刻な問題が明るみに出ているのも、遡れば明治の近代化に遠因がある。「明治維新」がもたらした功罪と、その現代日本社会への影響を、明治大正期の新聞・雑誌メディアの情報から考え、ご一緒に未来に向けた課題解決の可能性を探りたい。

【講師紹介】 学習院大学文学部史学科卒業。東京大学大学院総合文化研究科比較文学比較文化専攻博士課程修了。学術博士（1992 年）。現在、同志社大学大学院社会学研究科教授、同志社大学男女共同参画室長、同志社大学京都と茶文化研究センター長。専門は比較文化史、メディア学、ジェンダー論。主な著書に『「色」と「愛」の比較文化史』（岩波書店、1998 年、サントリー学芸賞、山崎賞受賞）、『「愛」と「性」の文化史』（角川選書、2008 年）、『「女装と男装」の文化史』（講談社選書メチエ、2009 年）など。

【参考図書】 ご講演の内容の理解を促進するために次の図書が有益です。

佐伯順子『明治<美人>論——メディアは女性をどう変えたか』（NHK 出版、2012 年）

どなたでもご参加いただけます。ぜひ、お誘いあわせの上ご参加ください。

日時： 2019 年 1 月 24 日（木）18:00～20:30

会場： 公益財団法人国際高等研究所

参加費： 2,000 円（交流・懇談会費用を含む）

定員： 40 名（申し込みが定員を超えた場合は抽選）

申込： 高等研の HP からお申込みください

<http://www.iias.or.jp/communication/goethe>

締切： 2019 年 1 月 23 日（水）

問い合わせ先： 公益財団法人国際高等研究所 京都府木津川市木津川台 9-3

ゲーテの会事務局 TEL: 0774-73-4000 E-mail: goethe0828@iias.or.jp



けいはんな「ゲーテの会」とは・・・

けいはんな学研都市の建設理念は、「従来の近代科学技術文明を乗り越え、新たな地球文明を創造するために、西欧が生み出した文明の成果と自らに固有の東洋的文化を総合する」ことにあります。高等研にあるゲーテの胸像はその理念のシンボルです。満月の夜は高等研で、人類の未来と幸福・けいはんな学研都市の将来について一緒に考えてみませんか。